

【問】 2003 年 大学入試センター 追試験 日本史B

古代の国司に関する A・B の文章を読み、以下の問い(問 1～6)に答えよ。

A 国司は、その指揮下にあった郡司と、郡司のもとで 50 戸からなる行政単位を管轄した ア とともに、律令国家の地方支配を担った。国司に期待されたのは、任国内の人々を大切に養い、産業を発展させることや、中央の イ などから下された命令を、任国で確実に実行することなどであった。

六国史には、このような意味での模範的な国司の姿が描かれた記事がある。たとえば、718 年(養老 2 年)に没した筑後守道 ^{みちのおびと} 首名は、任国内の農民に ^な (a) 作物の栽培や家畜の飼育 などについて熱心に指導し、その結果収穫が大いに増加したため、人々は彼を神として祭ったとある。

一方、首名とは正反対の国司も登場する。たとえば、842 年(承和 9 年)豊後国からの報告によれば、当国の介であった中井王は、在任中から隣接する筑後国・肥後国に出没して、人々の生業を妨げていた。さらに、^(b) その権限を任期終了後にも悪用して、豊後国内の農民から未納分の租税を徴収すると同時に、多くの私物を取り立て、着服していた。

問 1 空欄 ア イ に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- | | | | |
|--------|-------|--------|------|
| ① ア 衛士 | イ 太政官 | ② ア 衛士 | イ 京職 |
| ③ ア 里長 | イ 太政官 | ④ ア 里長 | イ 京職 |

問 2 下線部(a)に関連して述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 弥生時代には乗馬の風習が大陸から伝わり、墓に馬具が副葬されるようになった。
- ② 律令制では、庶民に利用させるため、主要道路に置かれた駅家に馬が用意されていた。
- ③ 律令制のもとでは、粟 ^{あわ} を蓄える義倉の制度があった。
- ④ 奈良時代には桑の栽培と養蚕が行われ、絹が租として徴収された。

問 3 下線部(b)に関して、国司の任期や権限について述べた文として **誤っているもの** を、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 国司が任期を延長し、在任し続けることを遙任とよんだ。
- ② 勘解由使という令外官が置かれ、国司の交替を監督した。
- ③ 国司は、任国内から兵士を徴発し、軍団で訓練を受けさせる権限をもっていた。
- ④ 国司は、任国内の農民を雑徭という労役に従わせる権限をもっていた。

B 9世紀後半になると、浮浪・逃亡・偽籍の増加などによって、戸籍・計帳の作成や班田収授の実施は困難となり、律令制本来の模範的な国司では、任国を経営するのは不可能となっていた。そこで、政府は国司に租税納入に関する一定の責任を負わせる代わりに、任国の支配をゆだねることにした。そのような国司としての職務を行う最高責任者を受領とよぶ。10・11世紀の地方社会では、彼ら^(c)受領の任国支配をめぐる、さまざまな動きがみられるようになる。

受領のなかには、中央政府への責任を果たしながら、同時に私腹を肥やそうとして、^(d)任国の人々との間で摩擦を引き起こす者も少なくなかった。しかし一方で、当時の文学作品に示されているように、^(e)受領やその家族、従者らの往来が、都と地方との間の人や物の交流に大きく寄与したことも事実である。

問4 下線部(c)について述べた文として**誤っているもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 任国内の課税対象となる土地を名という単位にわけ、そこから租税を徴収するようになった。
- ② 都から任国に在庁官人を派遣して、政務の処理に当たらせるようになった。
- ③ 任国内の公領を郡・郷・保などの所領の単位に再編成していった。
- ④ 押領使・追捕使などとともに、国内の治安維持に当たるようになった。

問5 下線部(d)について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 地方の豪族は、受領の徴税に対抗するため、所領を荘園とし、自ら荘園領主となった。
- ② 地方の武士は、^{とも}伴という組織を作り、受領やその従者に武力で抵抗した。
- ③ 地方の商人のなかには、租税を軽減してもらうため、受領に成功という^{わいろ}賄賂を贈る者がいた。
- ④ 地方の農民のなかには、受領の非法を中央の政府に訴え、その罷免を要求する者がいた。

問6 下線部(e)を主題とした文学作品として紀貫之の『土佐日記』があるが、これに関連した文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 『土佐日記』以後、宮廷女性らによって多くのかなの日記が作られた。
- ② 紀貫之は、勅 漢詩集『文華秀麗集』の編集に加わった。
- ③ 紀貫之は、意見封事十二箇条によって、地方政治の混乱などを指摘した。
- ④ 『土佐日記』には、紀貫之が土佐国から東海道を通して帰京する途中の出来事が書かれている。

【解答】

A

問 1 ③

問 2 ③

問 3 ①

B

問 4 ②

問 5 ④

問 6 ①

【問】 2003 年 大学入試センター 追試験 日本史B

古代の国司に関する A・B の文章を読み、以下の問い(問 1～6)に答えよ。

A 国司は、その指揮下にあった郡司と、郡司のもとで 50 戸からなる行政単位を管轄した ア とともに、律令国家の地方支配を担った。国司に期待されたのは、任国内の人々を大切に養い、産業を発展させることや、中央の イ などから下された命令を、任国で確実に実行することなどであった。

六国史には、このような意味での模範的な国司の姿が描かれた記事がある。たとえば、718 年(養老 2 年)に没した筑後守道 ^{みちのおびと} 首名は、任国内の農民に (a) 作物の栽培や家畜の飼育 などについて熱心に指導し、その結果収穫が大いに増加したため、人々は彼を神として祭ったとある。

一方、首名とは正反対の国司も登場する。たとえば、842 年(承和 9 年)豊後国からの報告によれば、当国の介であった中井王は、在任中から隣接する筑後国・肥後国に出没して、人々の生業を妨げていた。さらに、(b) その権限を任期終了後にも悪用して、豊後国内の農民から未納分の租税を徴収すると同時に、多くの私物を取り立て、着服していた。

問 1 空欄 ア イ に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- | | | | |
|--------|-------|--------|------|
| ① ア 衛士 | イ 太政官 | ② ア 衛士 | イ 京職 |
| ③ ア 里長 | イ 太政官 | ④ ア 里長 | イ 京職 |

問 2 下線部(a)に関連して述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 弥生時代には乗馬の風習が大陸から伝わり、墓に馬具が副葬されるようになった。
- ② 律令制では、庶民に利用させるため、主要道路に置かれた駅家に馬が用意されていた。
- ③ 律令制のもとでは、粟 ^{あわ} を蓄える義倉の制度があった。
- ④ 奈良時代には桑の栽培と養蚕が行われ、絹が租として徴収された。

問 3 下線部(b)に関して、国司の任期や権限について述べた文として **誤っているもの** を、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 国司が任期を延長し、在任し続けることを遙任とよんだ。
- ② 勘解由使という令外官が置かれ、国司の交替を監督した。
- ③ 国司は、任国内から兵士を徴発し、軍団で訓練を受けさせる権限をもっていた。
- ④ 国司は、任国内の農民を雑徭という労役に従わせる権限をもっていた。

B 9世紀後半になると、浮浪・逃亡・偽籍の増加などによって、戸籍・計帳の作成や班田収授の実施は困難となり、律令制本来の模範的な国司では、任国を経営するのは不可能となっていた。そこで、政府は国司に租税納入に関する一定の責任を負わせる代わりに、任国の支配をゆだねることにした。そのような国司としての職務を行う最高責任者を受領とよぶ。10・11世紀の地方社会では、彼ら^(c)受領の任国支配をめぐる、さまざまな動きがみられるようになる。

受領のなかには、中央政府への責任を果たしながら、同時に私腹を肥やそうとして、^(d)任国の人々との間で摩擦を引き起こす者も少なくなかった。しかし一方で、当時の文学作品に示されているように、^(e)受領やその家族、従者らの往来が、都と地方との間の人や物の交流に大きく寄与したことも事実である。

問4 下線部(c)について述べた文として**誤っているもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 任国内の課税対象となる土地を名という単位にわけ、そこから租税を徴収するようになった。
- ② 都から任国に在庁官人を派遣して、政務の処理に当たらせるようになった。
- ③ 任国内の公領を郡・郷・保などの所領の単位に再編成していった。
- ④ 押領使・追捕使などとともに、国内の治安維持に当たるようになった。

問5 下線部(d)について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 地方の豪族は、受領の徴税に対抗するため、所領を荘園とし、自ら荘園領主となった。
- ② 地方の武士は、^{とも}伴という組織を作り、受領やその従者に武力で抵抗した。
- ③ 地方の商人のなかには、租税を軽減してもらうため、受領に成功という^{わいろ}賄賂を贈る者がいた。
- ④ 地方の農民のなかには、受領の非法を中央の政府に訴え、その罷免を要求する者がいた。

問6 下線部(e)を主題とした文学作品として紀貫之の『土佐日記』があるが、これに関連した文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 『土佐日記』以後、宮廷女性らによって多くのかなの日記が作られた。
- ② 紀貫之は、勅 漢詩集『文華秀麗集』の編集に加わった。
- ③ 紀貫之は、意見封事十二箇条によって、地方政治の混乱などを指摘した。
- ④ 『土佐日記』には、紀貫之が土佐国から東海道を通して帰京する途中の出来事が書かれている。

【解答】

A

問 1 ③

問 2 ③

問 3 ①

B

問 4 ②

問 5 ④

問 6 ①